

第7分科会

テーマ（公立保育所の使命と地域社会での役割）

会場（かりゆしアーバンリゾートナハ シェルホール）

参加者数（149人）

幹事：沖縄県 泊保育所

座長団：大分県 桜ヶ丘保育所 / 沖縄県 きむたか保育所

助言者：宮崎県 南俣保育所 / 沖縄女子短期大学 児童教育科

意見発表者：佐賀県 入野保育所 / 熊本県 浜町第2保育園 / 鹿児島県 真砂保育園

記録：沖縄県 知花保育所 / 沖縄県 グッピー保育園



1. 意見発表趣旨

発表1 「テーマ：公立保育所の使命と地域での役割」

「発表園：佐賀県唐津市立入野保育所」

研究の動機・ねらい

…市町村合併後市の行政改革により、公立保育所の統廃合や民営化の流れを阻止できない厳しい状況にある。こうした中、保育士自らの意識改革を行い「地域のすべての子どもたちを育てる」という理念のもと、常に地域のニーズを把握し、保育をはじめとする福祉サービスに取り組む姿勢を大切にしながら、「子どもたちの最善の利益、発達を保障するために」各園で可能なことから取り組んでいる。

研究内容

…3年前から地域の特性を活かした活動として、棚田組合との「もち米作り」に取り組む。田植え、稲の成長と棚田組合の方の作業の観察、また稲刈りからはぎかけ（天日干し）まで棚田組合や保護者と一緒に汗を流し、餅つき体験もする。

結果及び考察

「もち米作り」を通して、地域の方々との関わりが深まり、地域全体で保育に関わりを持つ基盤ができた。

公立保育所は、地域福祉と子どもたちのためという点を絶対的な軸として保育すべきであって、その理念は失ってはならない。

助言内容

・地域の特性を活かし、地域全体で保育に関わると言うことはすばらしい。

・「もち米作り」という活動を保育計画のなかで、どのように位置づけていくのか事前に園内でどのようなことをしていくのか、また園に戻ってからはどのようなまとめをしているのが見えるようにしたほうがよい。このような活動を保育所だけで終わらせることなく、地域にもっとアピールし、小学校への継続、また連携を図る。

・インターンシップなど保育園がいろいろな人との関わりがあってよいが、子どもたちにとってどのような育ちになるのか、また園側が主体となった受け入れ方があるのもよいと感じる。

発表2 「テーマ：山都町における保育所再編問題にかかわって」

「発表園：熊本県 山都町立浜町第2 保育園」

研究の動機・ねらい

山都町も財政的に厳しく、また少子化に伴い保育所入所児童数が減少し定員割れの保育所も出てきている現状にあり、転換再編の時期にある。

町はH18年10月「保健福祉総合計画」の下に「児童福祉部会」を立ち上げ、保育所再編に向け具体的な検討、協議を始めている。その部会の一員として、定員割れの保育所の所長として、また現場で働く保育士として保育所再編問題に関わる。

研究内容

児童福祉部会と地元説明会の開催、町担当課と保育所職員との学習会開催の中から「どうして公立保育所なのか」という公立保育所の存在意義が論議の中心となった。今の形で保育所を存続していくのか、どのような形で再編するのか入所児童数「20名」を原則としたその根拠は何かについて意見を出し合い、町担当課と児童福祉部会へ提案していく。

結果及び考察

公立保育所は、すべての子どもたちの発達保障を目指した「就学前の保育、給食の充実」を図ってきた。その活動内容は私立保育所、へき地保育所にも広がりを

見せている。そのような中、本当に子どもの側に立った保育や給食をしているのかということ子どもを子どもの姿や実践で出し合うことで、保育の質の高さを認めてもらい、公立保育所存続についても理解を得ることができた。

今後、公立保育所が拠点となって町のすべての子どもの育ち、子育て支援の役割、責務を果たしていかなければならない。

助言内容

・児童福祉部会の一員に加わったことで様々な問題が見出せたことはプラスになっている。行政との連携プレーができたことは評価できる。

・地域で支えてくれる人たちがいるという安心感で出産、育児ができる環境が整っていることが評価できる。

・公立保育所の保育士は今まで培ってきた知識、判断力、キャリアを活かして頼られる保育所作りを志してほしい。行政・地域が一体となり、レベルアップにつながるような努力をしてもらいたい。

・地に足がついたものの考え方を。一緒になって向かうには、わかってもらえるよう共に歩むことが大事である。

発表3 「テーマ：これからの公立保育所 公立アクションプランの実践」

「発表園：鹿児島県鹿児島市立真砂保育園」

研究の動機・ねらい

公立保育所（園）の特性を活かして「地域に愛され、期待される保育園」「必要とされる保育園」を目指すとき、全保協の公立保育所アクションプランは必須であると考え、進めていくことにする。

研究内容

11 箇所の職員全員にアンケートを取り、公立保育所の特性と実践の状況をまとめる。

結果及び考察

公立保育所アクションプランがより身近になり、どの園でも園内研修の工夫やマニュアルの修正など、職員全員の共通理解と共通目標のもと意識改革が行われている。

地域の子育ての核として、地域に愛され、期待される保育園をめざし、園の課題や自身の課題を「できることは何か」から実践し目標をもつことにする。

助言内容

・「自分の保育所だったら」というアクションプランを組み立て、何が足りなかったという検証と、研修のきりこみ方が素晴らしい。どの園でも職員の意識改革が進み、公立保育所が向かう示唆になったのではないか。「アクションプランについてあえて説明しない。何故ならすでに分かっていることと捉えている」という姿勢に公立のキャリアを感じた。忙しい時間の中で有効に学んで確かな進歩、努力が伝わってくる。

・就学前の人づくりには人もお金も投資が必要である。
・民営化がどの地区でも出されているが、人づくりが一番大切であるという政策を打ち出しており、財政は厳しいが委託の話が出ていない。人づくりは幼児教育を抜きにはできないということで保育の質は落としてはいけないということが基本にある。子育て支援・親支援を行い、子どもにプラスになることをして欲しい。

2. 討議内容

討議のテーマ

- (1) 公立保育所に求められている保育の質
- (2) 保育所機能を生かした新たな子育て支援

討議のまとめ

・永年勤めたからと言って質が伴わなければ、キャリアとは言えない。
・与えられたものだけでなく、自分で探し行動する。予算がなければ工夫し、保育所機能を生かして保育所の子どもは勿論、地域にいる子ども育てや、親支援また後輩指導までが求められていることを自覚する。
・アンケートの中から保育指針の理解度がまだ十分ではないと感じられる。来年の4月に向けてさらに学習を重ねていく必要が読み取れた。
・保育の質を高めるには、現状の足元の整理をする必要がある。なぜ？だから何？何ができるの？常に問いかけることが大事であろう。公立は沢山の良い質を持っている。それを記録するということが説得させる材料になる。

その他 助言者の話の中から

・みんな厳しい。悩んだときに「子どものためはどっち？」と考えたら道は開け、必ず答えは出てくる。
・行政に関心を持たせる為、17年間 園だより、行事等の文書や運動会等の招待状等も出してきた。

.....子どもの様子を文書で知らせることにより、「幼児はかわいい」の状態から「幼児は素晴らしい」の理解に変化させることができた。生まれた時から教育は始まるのであることを理解してもらっている。幼児の素晴らしさを行政や地域の方々に伝える役目が我々保育士の責務であると考える。.....

